

たじま 夢テークル



コウノトリ翔る郷

委員会活動の拡がりを願って

但馬夢テークル委員会委員長 辻本 康次



今回の委員会情報誌「たじま夢テークル」は単に夢テークル委員のコミュニケーション誌に留まらず、地域住民に対する委員会活動並びに「県民行動プログラム」の広報という視点を課題に、誌面の刷新を図り、発行いたしました。過去二回の委員長巻頭言「ごあいさつ」は、メッセージの対象が、委員会活動を熟知された委員であり、地域ビジョン委員会の果たすべく「自分たちですぐにできること」「行政の支援を得ながら自分たちですること」「行政と密に連携しながら共に行動を遂げる」などの行動を中心に、但馬夢テークル委員が核となり、多くの地域住民の参画により行動を展開する目的を疎かにしていた事は否めず、また、私自身振り返って様々な機会に得た知識を咀嚼して知恵とせず、字面だけで文書化したため、難解に成ってしまったことを深く反省しています。従来の行政だけが担うと認識されてきた「公」を官・民・住民の参画と協働による新たな「公」の創出の一助として、夢テークル委員会が担う使命を果たすべく最善を尽くさなければと改めて思います。コウノトリ自然放鳥から一年経過し、大空を羽ばたぐコウノトリの様に夢テークル委員会の活動も大きく但馬全域へ飛翔することを願って止みません。委員会活動「たじま夢テークル」に関して忌憚のないご意見をお願いします。

夢テークル委員会って何？

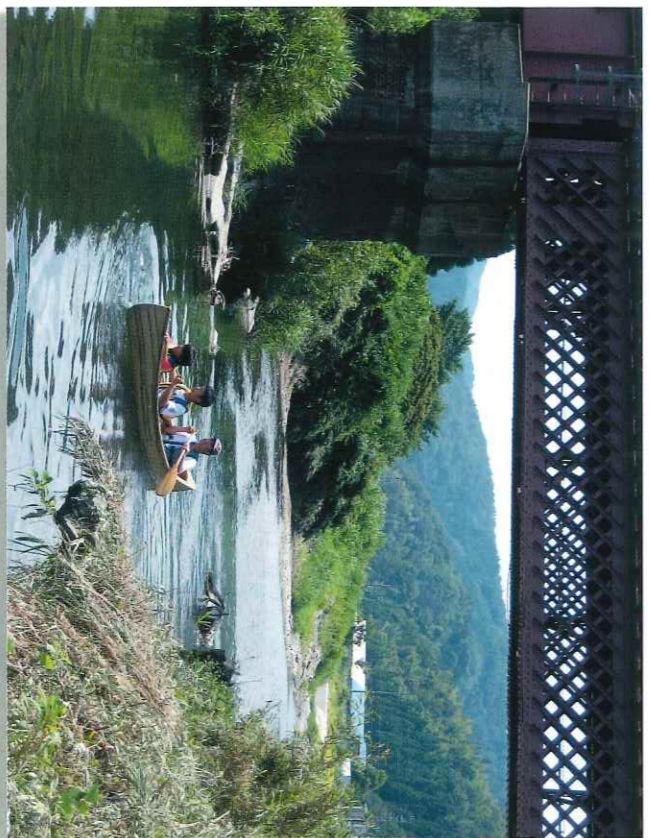
21世紀兵庫長期ビジョンに基づく「但馬地域ビジョン」を地域住民の参画と協働により実現していくため、但馬県民局に設置された委員会

夢テークルって？

地域ビジョン委員会「但馬夢テークル委員会」の活動の広報誌です！

県民行動プログラム？

「自分たちですぐにできること」「行政の支援を得ながら自分たちですること」「行政と密に連携しながら共に行動を遂げる」などの行動を中心に、但馬夢テークル委員会を中心として、多くの地域住民の参画により行動を展開するための「宣言」「手引き」



竹野川でのカヌー遊び



金山峠（豊岡市日高町）の調査

自立の郷

次世代会議—但馬の星づくり

次世代会議グループでは、自立の郷実現に向け協議会やごだん会を重ねてきた。机上の空論では終わりがたくない。街の活性化のために行動を具体的に起こしたい。熱いハートを持った20代～60代のメンバーが、新たな試みとしてシンクタンク「但馬の星」を結成することになった。農業、福祉、教育、産業などの分野においてテーマを絞り、考え、提案し、そして実行に移すグループだ。今の課題は人と人のネットワークを如何に広げることか。そのネットワークで、それぞれが得意分野を活かしてフォローしあう仕組みづくりを模索している。

例えば醤油を空き店舗の活用や福祉に役立てようなんていうアイデアが進行中だ。

一つのものに対して各世代がさまざまな眼差し、角度から物事を見つめることで、実にバラエティーに富んだアイデアが飛び交う。地域の活性化方策の実現に向けていろんな人の繋がりを深め活動中。

世代間のギャップなんて感じさせない「但馬の星」に、是非みなさんお気軽にお越し頂きたい。



[西垣 義嗣]

但馬まちづくりセンターの創設

わがグループは、「自分たちのまちは自分たちで作ろう」というテーマのもと、2度のフォーラムを実施して自分たちの望むまちづくりのあり方を追求した。1回は、「竹とんぼや柳ごおり」など手に技術を有しまちの活性化に努力している方のお話をうかがい、もう1回は「小学校で子どもを見守るボランティア活動」を行ない、地域の安心安全を実現している方に話をきいた。

こんなまちになってほしい、という願いを具体化するための活動を少しずつでも着実に広めていきたいと思いつけている。



[梅谷 光太郎]

但馬の近代化遺産の調査・マップづくり

新年度に入り毎月1回のペースで現地調査を行っています。行く先々で新しい発見があり、但馬という地の広さにびっくりしています。

- ・4月 朝来市生野町 (15人)
 - ・5月 養父市八鹿町 (12人)
 - ・6月 豊岡～竹野～香住～瀬戸・城崎 (10人)
 - ・7月 桃観トンネル、西光寺、居組・釜屋などのJR関連施設等 (8人)
 - ・8月 和田山町高田地区の流れ橋やグンゼ梁瀬工場の施設等 (10人)
- 二年目の前半を終えた成果
- ①メンバー自ら資料を取り揃えるようになったり講師など行うようになってきた。
 - ②調査報告をHPで発信し尚且つWEB上で但馬の近代化遺産のマップを作成している。
 - ③メンバーとして一般の人が増え毎月の例会参加者が多くなった。
- 夢テール委員会「但馬の近代化遺産の調査とマップづくり」ホームページ
<http://homepage3.nifty.com/egf/tkml/>
 マップ・活動報告・掲示板など載せています。気軽に掲示板に書き込んでください。



[中尾 康彦]

但馬の観光による活性化・多彩な交流促進

兵庫北部と京阪神地域を結ぶ、北近畿豊岡自動車道の建設が進められています。

「本年7月22日に「春日和田山道路」の全線が開通し広域交流ネットワークの形成、特に都市部と但馬地域の連携強化と活性化が図れる。」

(国交省、兵庫国道事務所の資料等より)

又、播但連絡道路の料金引き下げが本格的に実施される等交通手段の整備により、一層地域間交流が促進されます。

そこで、われわれグループでは但馬地域に来ていただく都市部の方々に、何を提供し理解していただくために何をすべきかを検討しています。但馬の気候風土、歴史、自然景観等によって「はぐくまれた」、但馬特有の「もてなしの心」で交流し、一人でも多くの但馬のファンを得るため、関係の方々のご協力とご指導を得ながら、但馬各地を現地調査しながら夢テール委員で話し合っています。



[石原 忍]

但馬の川と峠の物語

「南の国から北の国へ、西の村から東の村へとつなぐ峠の道。四季を通じて人々が行きかかった峠の道には、私たちの祖先の喜びと悲しみを秘めた、(まのぼ)とあたたかい、足跡が刻まれています。」(「兵庫の峠」から抜粋)

写真は高中峠の頂上です。養父市側の奥米地から、豊岡市の出石へ農作業に使う牛を貸し出していたなどの興味ある話も、このグループの視察で学びました。

私たちは、地元の人達の暮らしにまつわる話やその地の美しいものを楽しむため、検討会と峠の視察を、隔月に実施しています。是非1度ご参加下さい。



[宿南 登]

食の安全・安心と農業

私たちのグループで今年実施したアンケートの中で、我が子のように育てた作物が一旦市場に流通されると工業製品と同等に見られてしまう事への寂しさや虚しさを訴える生産者の意見が複数あった。スーパーの棚に並んだ虫食いのある野菜を不良品として見たり、野菜について土を異物として捉えてしまう。

一方で、各地の朝市などではその事が反対に商品の付加価値を高める事になったりする。また、アンケートでは食品購入時の注意点として各種の食品表示ではなく自分で直接確かめられる「鮮度」を上げる答えが多かった。それらから食品の「安心・安全」を消費者の目に見える形にして提供する事の大切さを感じながら集計作業を現在進めている。 【田畑 隆昌】



ふるさと音楽祭「たじまのうたまつり」

グループのメンバーが中心となって、「このとり音楽祭」をテーマとしたソロジュエトチームを結成しました。コウノトリの登場する歌は、民謡にミュージカルに創作曲にと、ジャンルも様々……。円山川・出石川の流域の学校の校歌にも登場します。まさに、但馬の人々の暮らしの中に、力強さと希望の象徴として歌い継がれているのです。

前号でお伝えした「このとりの歌」を集める取組みは、多くの参加と支持を頂いて、4月1～2日「第1回このとり音楽祭」を成功させ、両日で12ものグループと、800余名の市民の参加を得ることが出来ました。

さらに、今年が放鳥1周年ということで、「第2回このとり音楽祭」を9月23日(祝)に、コウノトリ文化館で開催。新たな参加も8グループを数え、益々、夢が広がります。



【沖野 芳郎】

環境にやさしい生活—5R生活の推進

5月、6月、7月とEM菌の地元での実践グループの見学、先進地見学。マイバッグキャンペーンに参加という形で活動を続けてきました。5R生活の実践、EM菌の学習、地球温暖化防止の学習と間口が広く取り組みに苦慮しております。

台風23号をはじめ、最近の地球の災害をみると「地球、何かか変!」。地球環境が壊れつつあると感じ始めておられる人が増えています。それは資源の無駄使い、自然を破壊し続けてきた人類への警告です。物はもちろん、大気、水などの資源をいかに大切に使い環境を守り、私たちの地球を守っていくのか大きな課題です。古くからあった日本人の物を大切にする美徳、「もったいない」を復活させる時です。任期も残すところわずか。果たしてどう私たちのグループの活動をまとめていくのか悩んでいます。 【稲葉 康介】



【稲葉 康介】

森・川・海の再生

8月の例会は竹野川を守る会の実践活動に参加する。テーマは「竹野川と友だちになろう!」であった。川の草刈り、清掃を行い、地元の食材で昼食をする。昼食後は委員の手作りカヌーでの川遊びが計画内容であった。当日は地域の方にもご参加頂き、会員各自が刈払機を持参して普段鍛えられた体は慣れた手付きで刈払機のエンジン音が唸りをあげると大きな雑草も次々と刈り倒されてゆく。その中より出てくるゴミを袋に入れて行くといった作業であったが、当日の最高気温36度で作業に向かいかけると玉の汗が体全体から吹き出て来て「互いに水分補給と休みながら作業をして下さい」と声を掛け合いながら作業を進めていた。



自然を守るということは、「自然が好きになる事が大切であること」と感じた一日であった。 【小林 太郎】

午後はカヌーで川遊びライフジャケットを着けてカヌーへ……。ウケウケ、ドキドキみんな初めてなので戸惑い気味でしたがすぐに馴れてスイスイ。

カヌーから見る川の中の魚や川岸の風景、最初は思い通りに動かないカヌー、わずかな時間でしたが子供達はそれぞれに自然のすばらしさ、自然に親しむ楽しさを感じ取ってくれたことでしょう。楽しくて終了時間を1時間もオーバーしてしまいました。自作のカヌーで自然の事を考え、自然の中で楽しむ、一人でも多くの人達に経験してもらいたいと思っています。カヌーは誰でも作れます、連絡いただければお手伝いします。 【河原 学】

地域の助け合いネットワークづくり

一年有余の話し合いの中から向こう三軒両隣の(古き良き)助け合いの習慣を、今一度呼び覚ますような活動に取り組んでみることにしました。

先ず始めに、小・中学生から、身体に障害をお持ちの方、高齢者の方達を始めとして、誰もがこれまでに経験され忘れることのできない親切な思い出を集めることに致しました。

「思わず心があつたまる話」、どこにでもあるかなんとかなく心がじんとして相手への思いやりが感じられる話などを集めて、一人でも多くの皆さんにお知らせし、お互いに共感し親切の連鎖を少しずつでも但馬の中に広げて行くことができます、いかに少子高齢化社会が進んでも、明るく住み良い但馬の未来が開いてくるのではないかと思います。

今ひとつは、但馬の中で身体・精神等の障害を持ちながら、けな気に生きておられる人達をお招きして、それぞれの悩みをお聞きして地域でどんな支え合いが大切か、掘り下げて学習する会を計画し人選もほぼ終えました。

私達のグループの取り組みが、但馬を温かみのある住み良い町づくり繋がりになっていくようねがっております。



【木下 幹夫】

地域防災力の向上

今年度は「地域役員に聞く」という台風23号の被害の大きかった地域の区役員の講演会を実施した。豊岡・西花園区長、日高町・赤崎と浅倉区長、出石町・鳥居区長と但東町・奥赤区長、和田山町・竹ノ内区長と養父市・宿南代表区長(どなたも台風当時)の体験、経験を聞いた。

台風23号当時の深刻な状況に加えて、地域内でのコミュニケーションの大切さ。ボランティアへの感謝。自主防災の組織化と防災訓練の実施。地域から若者が出て行くという深刻な訴え。山林の管理・倒木はお手上げ状態など深刻なものだった。

これらのお聞きしたことを、今後の残りの課題としてまとめようと相談している。

7月18・19日の集中豪雨の時、わたしの地域には避難勧告がでたが、防災無線で状況が丁寧に流された。活かされていると繰り返し思え、うれしさを感じた。



【大谷 晴観】

「隼より始める」

次世代の子供達を情緒豊かに、そして自然を愛するやさしい心の持ち主に育てたいと始まった朝来市和田山公民館活動の「まなび隼」は今年で五年目を迎えている。学校で教わらない色々な取組みをスタッフが計画して進めている。その中に俳句教室がある。俳句は日本の文化、四季と共に生きる人間と自然との一体感。子供達の目は純粋で好奇心に充ちている。今年も24名の子供達が毎回俳句を持参している。その中の一部を紹介しよう。

- ・くもさんは すを作るのがとくいなね
 - ・強さん おしり光るの 何でかな
 - ・つばめさん 私ものせて空の上
- ふるさと音楽祭「たじまのうたまつり」
[谷本 和夫]

但馬に「のじぎくの郷」を

かつて「のじぎく」は瀬戸内の海岸近くやその内陸に多く自生していたが、高度成長を期に、海岸線の埋立や宅地開発、都市化等により、自生地は減少、今日では県版シッドブターターッククラシクの絶滅危惧種になっています。



11月23日、のじぎくの開花をみて地域の方々
に広く呼びかけて、但馬長寿の郷で「のじぎくを愛でる会」と有志による野点(お茶会)を予定しており、多くの皆様方にご参加いただき、交流を図って頂く予定です。
森・川・海の再生
[宮本 勝美]

自然に学ぶ トリに学ぶ 「オントリは偉い」

無農薬の米・野菜つくりの他に「放し飼いの有精卵」をキャッチフレーズにオントリを飼っている。おんどりが4羽いるうちのボスのことである。ある時放し飼いの畑にやって来て「これからインジシ飼をしたいのでオントリを案内に入れて欲しい」と私に告げた。見かけぬ人として私の対応に不自然さがあったのかボスがやって来て猟師に飛びかかっていた。1回きりの飛び騾りであったが飼い主への応援行動とは思えない。トリといえどもボスともなればヒト並み否ヒト並み以上に正義感?を發揮するものだと思われた。オントリは偉い。
食の安全・安心と農業
[三谷 重信]

「朝倉氏ゆかりの文化財保存への想い」

下記に紹介する陰の文化財を永年保存したいという想いから地域活動を行っています。

○但馬朝倉城
朝倉城は中世期の創築以来戦国江戸期を通して山城様式として改造されて現在の形を遺しています。石を積み重ねた遺構は方々に確認できます。地中は未調査のためロマンを感じる山城です。四季を通じて本丸からの眺望が素晴らしいところです。殿さん気分が味わってくる城山です。小形ですが、山城として学ぶことのできる城跡です。
○但馬朝倉向山城跡
中世期後半の立派な山城と考えられます。八木川、小佐川、円山川沿いを見張る砦になる場所に位置する城山です。

今年度は越前朝倉氏を顕彰する
立て看板を2カ所設置しました。

但馬まちづくりセンターの創設
[才木 茂]

「但馬夢テニール倶楽部」OBの活動紹介

空家・空地ありがとう

50歳になったとき、「さあ社会に何か恩返しをしたいなあ」と夢テニール委員に応募して本当によかったなあと思います。但馬は何と魅力あふれる人々がいっぱいおられるのかと充実した2年間を過ごしました。

その後は、地元出石で5年前「魚屋を美しくする会」を結成し、空家や空地の有効利用に取り組んでいます。今年には国体の年ということで、空手をしているはばタンの構図で花壇を作らせていただいたり、お花見やお月見、お手玉大会などの文化活動をおこなったり、さまざまな世代の人が楽しく活動しています。
また、昨年は畑地から見事な綿を収穫でき、いつか自家製の綿の糸で...と夢がふくらんでいます。

[小畑 ひろゑ]

ほたるの里づくり

平成14年度より、地域の豊かな自然を守るために「村岡のホタルの里づくり」の会を結成し、国道482号線沿いに流れる昆陽川に、会員28名とともにカクニナを約10万匹放流しました。ところが、平成16年10月に襲った台風23号により、但馬の河川・水路では、あの幻想的なほたるの光が消えてしまったとも言われています。

しかし、今年、村岡区では、カクニナの放流の努力ではほたるの幼虫が多く見られ、来年は但馬で一番多く見られるのではないかと、村岡区のほたるの乱舞を期待しているところでは、自然の美しい町、兵庫県一を目指して、ほたるの見学会、ほたるの町づくりができる香美町村岡づくりをしたいと思っています。

[小林 正]

但馬の映像発信

但馬夢テニール委員会から独立して結成された「但馬で映像を発信する会」にて「ビデオの映像編集」の研修会を重ねているうちに、ビデオカメラの扱い方やシロクロの旅で撮影したビデオテープを短く編集する方法を取得しました。デジタルで撮った画像はCDに、ビデオカメラで撮った動画などDVDに編集、焼付けしていますが「世界の旅」で撮ってきました画像も数十枚出ています。

一昨年から但馬文教府主催の「みてやま学園大学院」に入学し、「但馬探訪グループ」を立ち上げて但馬全域の山、川、海岸、観光地、神社仏閣、温泉など現地に撮影に出かけました。氷の山や鉢伏山、扇ノ山、蘇武の山々、山陰海岸から、大屋、養父、朝来、生野の山奥から但馬、出石、城崎、日高と殆ど但馬全域に出掛け、但馬の映像をDVDにまとめました。この映像を11月ごろ「みてやま学園」にて発表する予定です。

[藤原文男]

第3回 但馬の巨木写真展

【展示期間】平成18年10月20日(金)～平成18年11月10日(金)
【展示場所】 兎和野高原野外教育センター・木の殿堂
(美方郡香美町村岡区和池951)
【開館時間】 10:00～16:30(入館は16:00まで)・月曜休館
【問い合わせ先】但馬巨木保存会事務局
[須山 TEL 0796-44-0653]
平成18年11月11日以降は、展示を希望される方に写真の貸し出しを行いますので、その際は但馬巨木保存会事務局までご連絡下さい。



第2回 但馬子ども民俗芸能祭

【日時】平成18年11月26日(日) 時間未定
【場所】但馬長寿の郷(養父市八鹿町国木594-10)
【問い合わせ先】但馬民俗芸能応援隊事務局
[二本 TEL 0796-22-5422]
時間については、後日チラシ等にてお知らせしますが、11月以降に但馬民俗芸能応援隊事務局までお問い合わせ下さい。



イベントのお知らせ

●但馬夢テニール委員会に関するお問い合わせは下記までご連絡下さい●

〒668-0025 兵庫県豊岡市幸町7-11 但馬県民局内 但馬夢テニール委員会事務局(企画調整部地域ビジョン課)
TEL:0796-26-3615 FAX:0796-24-7490 URL:<http://web.pref.hyogo.jp/area/tajima/vision.html>